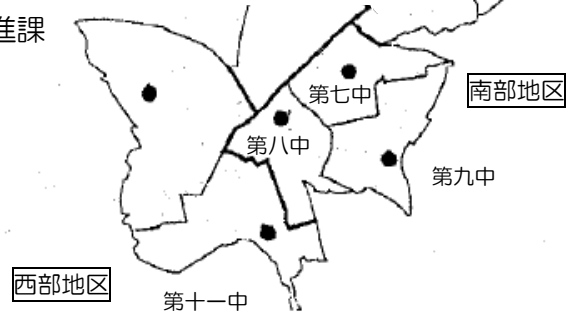


南部・西部地区の区立中学校の統合に向けた取組みの状況をお知らせします！

学校統合推進課だより(南部・西部地区版)No.9

発行：目黒区教育委員会事務局 学校統合推進課

目黒区教育委員会では、区立中学校の統合方針である「望ましい規模の区立中学校の実現を目指して」を策定しています。これに基づき、南部・西部地区の第七中学校・第八中学校・第九中学校・第十一中学校を2校程度に統合することについて検討しています。



庁内検討組織の会議（第11回）を8月22日に開催しました

南部・西部地区の区立中学校の統合については、現在、目黒区実施計画（平成 27 年度～平成 31 年度）と目黒区行革計画（平成 27 年度～平成 29 年度）に、平成 29 年度までの計画が示されています。平成 27 年度に「統合方針の改定（南部・西部地区における統合実施策の策定）」、平成 28 年度に「協議組織の設置等、統合方針に沿った具体的な取組み」、平成 29 年度に「校名の選定など、新校開校に向けた具体的な取組み」を実施することとしています。しかし、実際には様々な課題により、この計画どおりには進んでいません。

そこで、当日の会議では、統合新校開校までのロードマップ（行程表）について、現在の状況を踏まえて検討しました。ロードマップはたたき台の段階でこれから検討を重ねていく必要があるため、お示しできる内容には至っていませんが、以下の観点で作成することとしました。

統合方針の改定時期に影響を与える課題としては、次のようなことが挙げられます。

- 施設の長寿命化 施設改修等に当たっての判断材料とするため、平成 26 年度に対象 4 校の耐力度調査を行いました。文部科学省が調査方法の改定について検討することとしました。そこで、その動向を注視することとし、耐力度調査の結果は内部の参考資料としています。また、区では、次年度に向けて区有施設見直し計画を策定することとしており、これらも踏まえて検討する必要があります。
- 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の建設業に対する影響 オリンピック・パラリンピック関連の会場設備など直接的な需要だけでなく、民間ホテルの新築・増改築や都心の再開発、商業施設の建設や交通インフラの整備といった間接的な需要も含まれます。これらによる建設業に対する労働需給の逼迫や建設費の高騰などの影響を考慮し、その推移を見守る必要があります。

統合方針を改定した後の取組みとしては、目黒中央中学校や大鳥中学校の統合の例にならない、協議組織を設置していく予定です。

- 協議組織の設置 新設中学校の学校づくりを進めるに当たっては、対象校の学校関係者、保護者、地域の方々等による協議組織を設置して、開校に向けて必要な基本的事項（学校の位置、通学区域、校名等）について協議をします。（時期未定）
- 統合準備組織の設置 教員等で構成し、新設中学校の実務的な事項について検討します。新設中学校の教育課程や学校組織についての課題整理等を行うとともに、移行期間中の学校行事、部活動等の交流内容等について検討します。（時期未定）

会議では、そのほか、「大鳥中学校の統合による成果・課題の検証のスケジュールについて（案）」についても話し合いました。引き続き、庁内検討組織では、統合方針の改定に向けて取り組んでいきます。

教育委員会から
のお知らせ

平成 28 年度目黒区立中学校案内「めぐろの中学校」を発刊しました

教育委員会では、これから中学生に進学する子どもたちや保護者の皆さまに、目黒区立中学校の魅力ある取組みをお伝えし、身近に感じていただくために、ご案内の冊子として「めぐろの中学校」を発刊しました。在籍する区立小学校を通じて 4～6 年の児童全員に配布するほか、目黒区総合庁舎 5 階の学校運営課窓口等でもご用意しています。

【問い合わせ先】学校運営課学事係 電話：5722-9304（直通）

【コラム 望ましい学校規模と想定学校数①】

望ましい学校規模の考え方に基づいて、区立中学校の学校規模を想定すると、7校程度になります

望ましい学校規模の考え方（区立中学校について、学級数で11学級以上、生徒数で300人を超える学校規模）に照らして、現在の区立中学校9校の学校規模（平成28年5月1日現在）を見ると、東山中学校、目黒中央中学校、大鳥中学校の3校がこの規模を満たしています。また、第十中学校は、10学級ですが、生徒数については300人を超えており、望ましい生徒数を満たしています。その他の学校は、いずれも望ましい学校規模としての学級数、生徒数を満たしていない状況となっています。

区立中学校の生徒数と学級数（平成28年5月1日現在）

学校名	生徒数				学級数			
	1年	2年	3年	計	1年	2年	3年	計
第一中	47	48	60	155	2	2	2	6
第七中	66	75	79	220	2	2	2	6
第八中	65	70	78	213	2	2	2	6
第九中	48	62	68	178	2	2	2	6
第十中	121	87	111	319	4	3	3	10
第十一中	73	82	68	223	3	3	2	8
東山中	129	137	164	430	4	4	5	13
目黒中央中	163	149	202	514	5	4	6	15
大鳥中	131	119	131	381	4	3	4	11
合計	843	829	961	2633	28	25	28	81

【学校統合の取組みの紹介～新校が目指す学校像】

統合による新設中学校の「学校像」は、学校関係者、保護者、地域の方々等による協議を通じて決めていきます！

平成27年4月1日に第三中学校と第四中学校を統合して開校した大鳥中学校では、目指す学校像について、協議組織（構成員は学校関係者、保護者、地域の方々等）により協議・検討を行いました。この協議結果を受けて、教育委員会では統合新校整備方針を策定し、学校像のひとつとして「学ぶ意義を実感することで自己への自信を獲得するとともに、国際社会に役立つ英語によるコミュニケーション能力をはぐくむことができる学校」を掲げ、統合を進めました。この方針のもと、大鳥中学校では、英語教育が推進されています。その中で、特に目立った取組みである「E（イングリッシュ）キャンプ」をご紹介します。

■ Eキャンプ～活動はすべて英語を使用！～

大鳥中学校では、英語によるコミュニケーション能力の向上のための教育活動として、Eキャンプを実施しています。統合移行期間中の平成26年度に第三・第四中学校の交流活動として開始し、本年度が3回目になります。外国語指導員（ALT）との宿泊活動を通じて、英語によるコミュニケーションに対する意欲と能力の向上及び異文化の理解を図るもので、すべて英語を使用します。本年度は7月22日～25日に、ハケ岳林間学園で実施しました。参加者は、2年生47名（抽選。欠席1名）で、指導者は、ALT（11名）、校長、教員（2名）、指導員（3名）です。

■ 3泊4日の「プチ留学」

活動内容は、○日常生活で使用する会話等の練習、ゲームやアクティビティ、○テーマ（オリンピック）に沿った話し合いやプレゼンテーション、○ハケ岳のフィールドを活用したネイチャーハイク、キャンプファイヤー、ナイトハイク等の野外活動です。

■ 「英語が楽しくなった」

参加した生徒からは、「英語が楽しくなった」「外国の人と話しやすくなった」「聞き取る力がついた」「単語なども自然と覚えた」などの声がありました。

大鳥中学校の牛島校長に話をうかがいました。「Eキャンプは、子どもたちが英語を好きになれるいい機会です。3泊4日の間に、なんとかして英語で会話をしようという気持ちになるようです。英語を使うことの楽しさがわかり、勉強したいという意欲に火をつけるのでしょうか。参加した生徒たちが夏休み明けの英語の授業でリーダーとして積極的に発言する姿を見ました。今年大鳥中学校に入学した生徒のアンケートでは、英語教育に期待して入学したとか、英語教育が期待以上だったという回答が上位にあるんですよ」



Eキャンプ2日目 ネイチャーハイク（清泉寮）

南部・西部地区の区立中学校の統合に関するご意見・ご質問等は、学校統合推進課にお願いします。

【問い合わせ先】学校統合推進課 電話：5722-9301（直通）

Eメール：kyoiku05@city.meguro.tokyo.jp

ホームページ：http://www.city.meguro.tokyo.jp/kyoiku/gakko_kyoiku/chugaku_togo/